日本共産党あきる野市委員会発行

あきる野民報

発行責任者/松平重幸　TEL&FAX 558-0718

住民の利益をまもり、
「住民こそ主人公」の
あきる野市政実現をめざして！

2006.1.15　No.431（毎月２回発行）

平和・暮らしのたたかいと「住民こそ主人公」の市政めざし 日本共産党の躍進の年に！

街頭演説をする日本共産党あきる野市議団（左から、戸沢、山根、影山の各議員）

昨年は温泉問題が大争点の市議選がたたかわれました。暮れには、市長と市議会の多数で、温泉建設が強行されましたが、私は市民の声を大事にする議員として、学校の耐震化、福祉の充実など、市民の願いを優先させ、ゆがんだ市政をただすため、今年も一生懸命働く決意です。

日本共産党市議　影山　保

ホームページ開設以降、五年間で、五万五千におよぶアクセスがあり、沢山のメールが寄せられて忙しい毎日を送っています。これからも頼れる「前期高齢者」議員として働きたいと思っています。どうぞ今年も私を大いにご利用ください。

日本共産党市議　戸沢　弘征

昨年の市議選では、皆様から大きなご支持をいただき二期目を当選することができました。市議会では女性の議員が減りましたが、台所を預かる女性の一人として、子育てから介護まで女性の声が市政に生きるよう、きめ細かな問題をとり上げ、要求実現のために仕事をしていきたいと思っています。

日本共産党市議　山根とみえ

昨年は市議選、都議選、衆議院選とご支援ありがとうございました。いま平和の問題、暮らしの問題でも、日本共産党に頑張ってもらうしかないと期待がよせられています。

今年は十一日から党大会がありました。住民と共に歩み、徹底して住民の利益を守るために活動してきた日本共産党がもっと大きくなる年にしなければと決意しています。

あきる野市委員長　松平　重幸

野良望

この冬は寒い。気象庁も「暖冬」の予報を「厳しい寒さ」に変更した。朝の寒さが厳しくなると子どものころを思い出す▼私は小学校から高校まで新聞配達をした。冬の寒さがしもやけの手足にしみる冷たさ・痛さには泣いた。そのころ新聞は年に正月二日付だけが休みで、元日から二日にかけて、思いっきり寝たものだ▼いま週二回、「しんぶん赤旗」日刊紙の配達を自転車で一時間ほどかかってしている。確かに手足は冷たいし鼻がツーンと痛くなることもある。しかし、子どものころと比べるとなんだこれくらいと思える▼とくに他のマスコミ各紙が「事実を伝えず」「権力を監視しない」なかで、「赤旗」の役割を思うとき、増税など〝小泉寒風〟を打ち破り、〝政治の春風〟を届ける役割を果たしていると思うとき、ペダルを踏む足にも力が入る。（湘）

早朝スナップ

草花・木崎秀治

「赤旗」日刊紙配達での
スナップです
折立の八雲神社から
花の岡へ向う
多摩川に沿った道を走ると
天気のよい朝は見事な
日の出を見せてくれます
多摩川から立ちのぼる
蒸気が
極寒に朝靄となって
これもまた美しい

新春の集い

佐藤真子ソプラノを唄う
青年弁護士 鈴木 剛
熱く9条と平和を語る

■と　き＝1月15日(日)午後1時30分
■ところ＝まほろばホール(五日市交流センター)
共催＝日本共産党あきる野市委員会・同後援会

新たな飛躍の年――2006年！

各界からのメッセージ

私たちの会員は775名で史上最高となり「秋川流域に診療所を！」の最高目標に向けて確かな一歩になったと役員一同手ごたえを感じています。今年はさらに前進を。前進こそ「たたかい」だと思っています。

三多摩健康友の会秋川流域支部　支部長　増田忠治

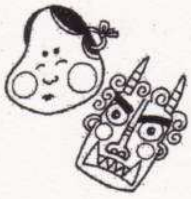
改憲の動きが強まっています。私たちは、政党政派などさまざまな相違点を乗り越えて、憲法九条を守るという一点での共同を訴えています。日本と世界の宝、憲法９条をごいっしょに守りましょう。アピールへの賛同署名を心からお願い申し上げます。

あきる野９条の会　事務局長　前田 眞敬

気負わずたのしく丁寧に、
後悔少なめの
毎日を送ろうと思います。
たばたあすみ

ビラを配ったら逮捕される事件が続いている。そんなことがあっていいはずがない。
憲法と人権を守る大きな波を。人権を侵害された人に支援を。そのために、ご一緒に。

日本国民救援会秋川流域支部　事務局長　渡辺　湘



耐震偽装建設、アスベスト被害と、職人として情けない事件ばかり。利潤第１主義で人間の命はどうでもよいと大企業は思っているのか。職人の良心を守り、職人の暮らしを守るためにも、地域住民の方と一緒になって、今年もがんばります。

東京土建あきる野第二分会　副分会長　平沢源司

歴史探訪　第11回　鎌倉街道（2）

八雲神社（草花・折立）

中世・近世を経て現代に至る長い時代の変遷は、道路が寸断され、特に現代では都市構造の変化や住宅の密集によって、鎌倉街道の名は残っているものの旧街道の趣を見出せないのは当然かもしれません。

市内に残る鎌倉街道は三本とされていますが、前号で述べた鎌倉から関東広域へ広がる三本の主幹線とは別の間道であり、武蔵周辺の武将が馳せ参じた以外に、村から村への交通手段、農産物や荷役の運搬など、生活道路として発展し、後に鎌倉街道と云われたと考えられます。

市内の鎌倉街道と云われる道で、最も趣を残しているのが草花・折立にある八雲神社近く北西から南東へ走る、街道と呼ぶにはあまりにも狭い二米程の林間道路です。慈勝寺（草花）西側の公民館通りを北へ向うと、多摩川に沿った都道に突き当たりますが、この慈勝寺と都道の中間点を横切る小道が鎌倉街道であり、草花丘陵の裾野に点在する民家の脇道となって通っています。丘陵の上のハイキングコースと周辺の立ち木に、私が訪れた紅葉真っ盛りの季節は、間道に落葉が散って時代を偲ばせる風情がありました。（次号に続く）

草花・木崎秀治

俳句

「新春雑詠」

表れの曲がり広して松飾　（かほる）
参拝のチワワも柴犬も春着着て　（米里）
氏神に言挙げをせず初詣　（芳子）

七福を三福に済まし初詣
明くるまで灯ともす家や去年今年　（藤代）
初夢に七福神の舞ひ唄ひ
為朝の口一文字武者絵凧　（香海）